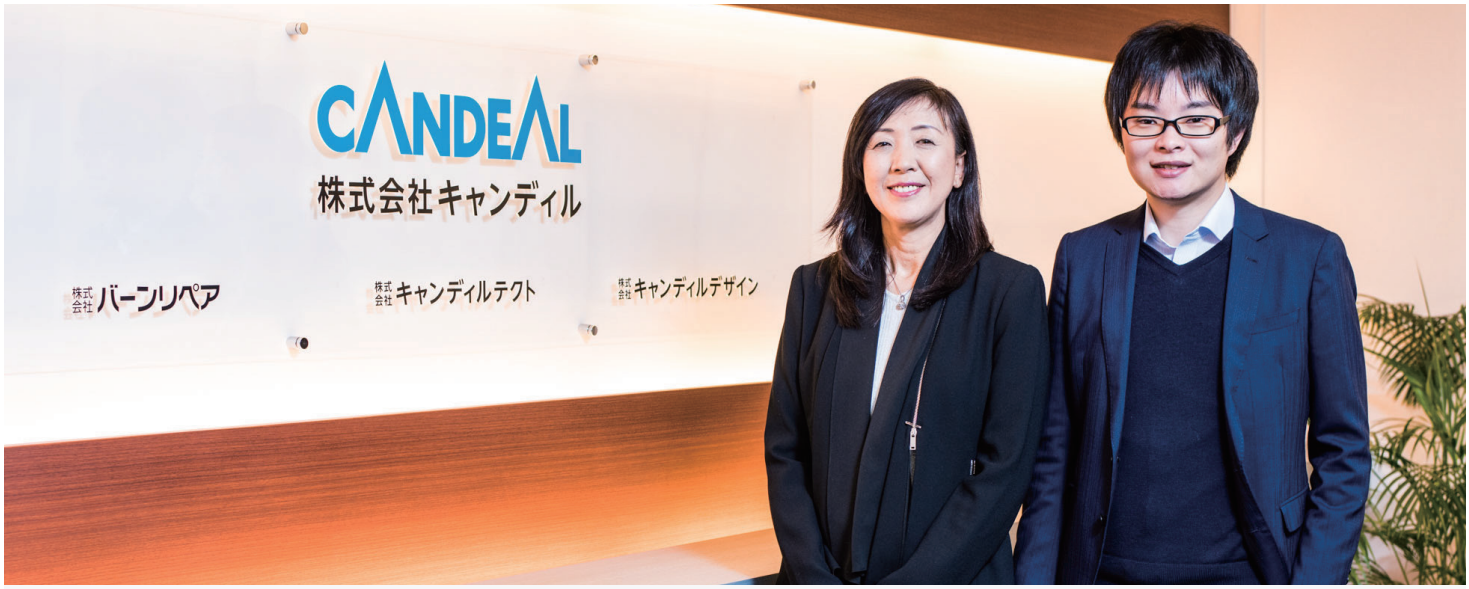


（左から）藤原 泉 氏、大坪 夏樹 氏

グループ1,400人の成長企業がロボットを内製化。年3万時間の余力創出で生産性向上に貢献

CORPORATE PROFILE

社　名
株式会社キャンディル

事業内容
建築サービス関連事業

ウェブサイト
https://www.candeal.co.jp/

- 話を伺った方 -
管理部門担当取締役
藤原 泉 氏

総務部　システム課
大坪 夏樹 氏

Highlight

- ☑ 完全自社開発で、90業務に120体のロボットを導入
- ☑ 業務増を、より少ない人数でこなして増員抑制
- ☑ 新規業務もロボットに委ね、顧客対応の強化を実現

「建物のライフサイクルサポート企業」を掲げ、さまざまな建物の修繕・改修・維持・管理に関するサービスを関連4社で展開するキャンディルグループ。建築業界のニーズを的確にとらえて業容を全国に広げ、2018年7月には株式上場を果たしている。企業成長による業務増を受けた生産性向上策として、2016年4月にRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）サービス「BizRobo!」を試験導入。当時大企業で活用が先行していたRPAが、従業員1,400人規模の自社グループにも有効と確認し、本格採用に踏み切った。ロボット化による余力の創出は、現在年3万時間相当。RPA導入による残業と増員の抑制効果は、経営指標上にも現れている。今後、グループ内外の業務でロボット活用をさらに進めながら、リモートワークなどの柔軟なワークスタイルや、AIをはじめとする他のテクノロジーとの相乗効果も追求していく方針だ。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

導入背景 全国をカバーするサービス体制網で増大する事務作業

システム化では対応困難な「細かい手間」の軽減策を探る

東証マザーズ上場の純粋持株会社「株式会社キャンディル」のもと事業会社3社を擁するキャンディルグループは、住宅の補修や商業施設の内装工事などを全国展開。月間およそ2万7,000の現場で施工を行っている。

全国56拠点・1,000名以上の自社技術者からなる独自のサービス網により、建物のライフサイクルに応じた多様なサービスを提供。問い合わせ対応や技術者の手配、施工前後の報告といった事務作業が連日大量に生じるため、独自の基幹システムを構築して処理の効率化を図ってきた。

一方、システム化に見合わない定型業務では手作業も少なからず残り、企業成長に伴い増大する「細かい手間」の省力化は急務となっていた。

いっそうの企業体質強化を要する株式上場を控えたタイミングで、同社はこうした業務改革を販管費抑制の一環に位置づけて本格化。大手企業に広まりだしていたRPAに着目した。



藤原 泉 氏

BizRobo!を選んだ理由 自社独自の基幹システムとの連携に優れた設計を評価



大坪 夏樹 氏

入念なテスト運用で導入効果を実証し、本格導入を決断

RPAによる業務効率化に関心を持った同社は、BizRobo!の販売元であるRPAテクノロジーズの提案を受けて自社での効果を検証。Webブラウザで操作する基幹システム関連の作業に改善余地が大きく、ブラウザ内蔵の同製品が有望と判断し、2016年4月にテストを始めた。

社内エンジニア1名で開発を始め、3カ月で現れた十分な導入効果は、社内メールで報告を受けた経営陣を驚かせた。図面や写真など施工場所約700件のデータを連日処理する部署が強く採用を希望したこともあり、テスト開始1年余で本格導入。現在、本業と兼任の2名体制でロボット化を進める。

BizRobo!の運用に関して同社は「高度な実装に対応できる半面、完全な内製には一定のITスキルが必要」とみる。ロボットの全社展開に向けて担い手を増やす過程では、社内教育の充実と併せて、簡易な実装に最適化されたツールの併用も検討する。

Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

対象業務 データ登録など90業務で120体のロボットが稼働中

既存業務の代替に加え、新規業務もロボットに委ねる

ITシステム開発での対応が困難だった定型作業をターゲットに、現在およそ90の業務にロボットを導入。一連の業務で複数のロボットを用いる例もあり、常時稼働中のロボットは、合計でおよそ120体に達している。

このうち、受注したリペアサービスの現場図面をサーバに登録する業務では、発注者にも協力を依頼し、物件単位で付与したIDをPDFのファイル名として記載。これをBizRobo!に読み込ませることにより、基幹システムに図面ファイルをアップロードする業務をすべてロボット化することに成功した。

RPA導入を機に、既存業務の代替にとどまらない新たな業務も開拓されている。中でも、社内向けの帳票システムで作成した作業報告書のPDFを、発注者が閲覧できるシステムに自動転送するロボットは、社員の手が回らなかった1日600件の作業を担当。顧客対応の向上に貢献している。



導入効果 年間3万時間相当の余力創出で、投資を上回る効果

「業務増でも人員減が可能」。数字と現場が示す生産性向上

ここまでのロボット化で創出されたリソースは、労働時間換算で年間3万時間相当。投資を大きく上回る効果で、販管費抑制という当初の目標を順調に達成しつつある。

さらに、ロボット導入部署の人員や残業時間、売上高に関する前後比較では、売上の伸びが総労働時間の伸びを上回った。経営の「守り」を固めるコスト削減だけでなく、生産性向上という「攻め」の面でもRPAの有効性がうかがえる。

実際に、導入部署の社員からは「慢性的な残業が解消した」「業務が増えても作業人数は逆に少なくて済み、顧客対応に余裕を持てるようになった」などの声が寄せられているという。

定型業務のロボット化で大幅な増員は回避する同社だが、戦略的ポジションへの採用には積極的だ。BizRobo!は人事部門でも活用され、煩雑な求人サイト管理業務の省力化に大きな役割を果たしている。



Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.

今後について

グループの基幹システム統合に並行してロボット化を拡大

AI活用やリモートワーク推進への貢献にも期待

キャンディルグループは現在、全4社のうち1社でロボット化を先行させている。M&Aによって急成長したグループの懸案だった基幹システムの統合が近く予定されていることから、当面は現状でも可能な範囲でロボットを横展開。それと並行して、統合後の業務フローでのロボット活用も検討していく。社外との協業においても積極的にロボットを採用し、RPA関連での事業化も目指す。

そのほかグループ内では、施工内



容や担当者のスキル、移動距離などを考慮したシフト調整が月間10万件発生しており、ベテランの経験に依存する状況の改善に向けたAI（人工知能）の導入検討が進む。また、育児や介護といった社員の家庭事情に対応できるよう、リモートワークの拡充も計画中だ。こうした新たなワークスタイルを支える上でも、拡張性に優れたBizRobo!への期待は大きいという。

現場の声

SEが認めるBizRobo!の強みは「Web関連の作業適性」



社内外で共有されていた課題感が、迅速なロボット化を実現

「当社グループで最初にBizRobo!を導入した住宅補修部門では、全国35拠点の社員や独立開業した協力業者(元社員)など約700人が日々連絡を取り合っています。

リペアの受注から完成までの調整作業は複雑を極めます。そのため、日ごろから正確で円滑なコミュニケーションへの意識を共有していたことが、今回IT部門と現場の協働でロボット化を進められた大きな理由だと思います。

システム開発経験が長い私は、RPAと類似の自動化ツールを以前に使ったことがありますが、BizRobo!はWeb関連の作業を簡単・確実に任せられる点で優れていると感じます。今後は汎用的なロボットの横展開でグループ全体への普及を進めながら、自社運用の体制を強化していきたいです」（大坪氏）

OPEN
オープン株式会社は日本国内で長年にわたりRPA事業を展開し、業界・地域を問わずその活用ノウハウを提供しています。「ヒトの進化を共創する」ことをミッションに掲げ、BizRobo!をはじめとするRPA関連製品・サービスの提供により、個性が思う存分活かされ、楽しむ人たちが躍動する未来の実現に向かっていきます。
もっと情報を知りたい方は
BizRobo! 検索
https://rpa-technologies.com
お問い合わせ:
オープン株式会社　〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F　BizRobo!事務局：Tel 03-6778-0864
※記載している内容は取材日時点の情報です。
Copyright © OPEN, Inc. All rights reserved.